

遺族に届けたい 気仙沼で不明者搜索

震災から2年10カ月



腰まで海水に漬かって、行方不明者の搜索をする
気仙沼署員とボランティア＝11日、気仙沼市松崎
尾崎

東日本大震災から2年10カ月となる11日、宮城県気仙沼署は気仙沼市松崎尾崎周辺の海岸で、震災による行方不明者の集中搜索をボランティアと合同で実施した。

同署とボランティアによる搜索は昨年12月に続いて2回目。午前10時、氷点下1度の寒空の中、約80人が砂浜を歩き回り、熊手などを使って手掛かりを捜した。5時間の

搜索で約15センチの骨の破片3本が見つかった。

気仙沼署によると、市内の行方不明者は236人で、搜索場所周辺では約20人が見つかっていない。

ボランティアで搜索に参加した兵庫県加西市の看護師尾崎雅樹さん(39)は「久しぶりに被災地を訪れ、復興が進んでいないことを実感した。不明者の手掛かりを捜し出し、遺族のもとに届けて安心させたい」と話していた。

2014年01月12日日曜日